

## 現場風景・あかり光景 125

### ホテル、屋内運動場、クラブハウスなどが続々!! 熊谷市に建設中のラグビータウンの目玉施設たち



公園内の宿泊棟は夏に披露目が予定されているラグビータウン熊谷の新名所

2019年に開催されたラグビー・ワールドカップの余韻は今も醒めやらない。2019年の興奮をそのまま2020年に持ち越すことは、残念ながら新型コロナウイルスの影響もあり、できなかった。そういう意味ではせっかくのブームがトーンダウンしたという言い方もできるだろう。

しかし、表面的なブームというのは、新型コロナウイルスの騒動があってもなくても、いつかは消え去る運命にある。

その点、2019年ラグビー・ワールドカップが掴んだのは、単なるブームではなく、もっとコアな部分でラグビーの魅力に目覚めた多くのファンだった。

日本のラグビー界を牽引するトップリーグには、新型コロナウイルス禍に見舞われた後も、続々と各国代表選手たちが移籍している。いずれの選手たちも、その理由の一つに、ワールドカップでの日本人サポーターたちの熱い声援とてなしの精神に魅せられたことを、異口同音に挙げている。何よりも長年の課題だった子どもたちや女性たちの競技人口が増えつつある。

ラグビーは今や「むくつけき大男たちだけのスポーツ」ではなく、老若男女がそれぞれの体力に合わせて楽しめる、規律あるスポーツとしての魅力を、黙っていても発信できる存在になりつつあるのだ。今週の写真は、その「証」の一つといえるかもしれない。

ワールドカップの会場都市となった埼玉県熊谷市にて建設中の、ラグビータウンの目玉の一つである宿泊棟（ホテル）なのだ。

ワールドカップの会場に使われた熊谷ラグビー場が立地する熊谷スポーツ文化公園内に建設中のこの宿泊棟は、ラグビー選手や関係者だけでなく、試合観戦に訪れたファンも利用できる。

併せてクラブハウス、屋内運動場、カフェなども建設される予定で、今年8月に熊谷市に拠点を移すトップリーグの強豪「パナソニック・ワイルドナイツ」の本拠地ともなる。今秋以降のシーズンにはさぞかし話題を呼んでいることだろう。（砂耳）